

[平成17年度普及に移す技術]

[普及に移す技術名] トマト「越のルビー」の少量培地栽培における吸水量の推移

[要約] ミディトマト「越のルビー」少量培地栽培において、一株2本整枝栽培（主枝第6花房上摘心）における一株当たりの吸水量は、1日当たり最大でも3Lを超えることはない。また、第4花房開花期以降、好天時の場合、一株当たりの吸水量は1時間当たり200～250ml前後で推移する。

[キーワード] ミディトマト、越のルビー、少量培地、吸水量

[担当] 福井園試・野菜花き研究グループ

[連絡先] 電話 0770-32-0009、電子メール [enshi@pref.fukui.lg.jp](mailto:enshi@pref.fukui.lg.jp)

[分類] 参考

---

[背景・ねらい]

低地水田地帯は地下水位が高く、トマトの地床栽培では果実の品質劣化が問題となる。特に、ミディトマト「越のルビー」は糖度の低下を招き易い。この対策の一つとしては、湿害や連作障害の懸念が少なく管理も容易な少量培地栽培が有望であるが、好天時の灌水管理が難しい。このため、ミディトマトが必要とする吸水量を調査し栽培の基礎資料とする。

[技術の内容・特徴]

1. この調査は2003年（抑制栽培）と2004年（半促成栽培）の2カ年の結果である。栽培方法はポットを用いた少量培地栽培で、培地は土とピートモスを同量混合した培養土を使い、培地量は4Lである。水分は培地に挿入した吸水シートを通じて継続的に補給している。
2. ミディトマト「越のルビー」の少量培地栽培において、一株2本整枝栽培（主枝第6花房上摘心）では、第4花房開花期以降の一株当たりの吸水量は、好天時の場合でも1日当たり3Lを超えることはなく、2,500ml前後で推移する（図1）。
3. 同じく、主枝第6花房上を摘心した一株2本整枝栽培において、第4花房開花期以降の一株当たりの吸水量は、好天時の場合でも1時間当たり200～250ml前後で推移し、最大でも300mlを超えることはない（図2、図3）。
4. 以上のことから、強い日射時の灌水は、一株を目安に1時間当たり200～250ml、一日の灌水量が3Lを超えない範囲で実施する。

[技術の活用面・留意点]

1. 少量培地栽培において、過剰な灌水を避けるための目安になる。
2. 過剰な灌水は果実の裂果の原因となるので、雨天時の灌水は行わない。

[ 具体的データ ]

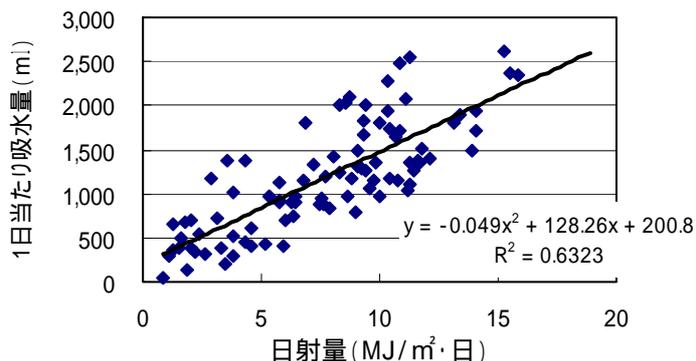


図1 ミデイトマトの1日当たり吸水量と日射量の関係

(注) 各測定値は1日の積算値。測定期間は平成15年9月10日～10月30日、平成16年5月8日～7月9日。ポット栽培、一株2本整枝(第6花房上摘心)。

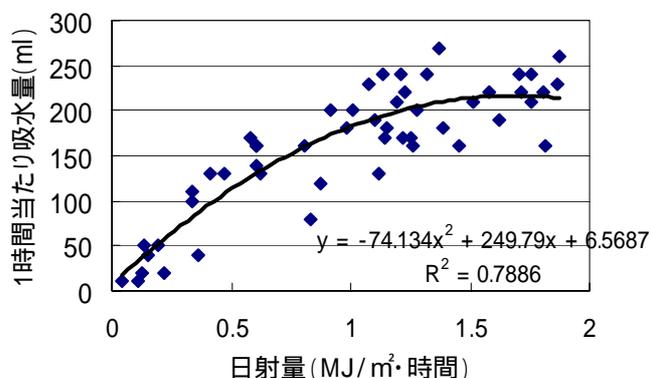


図2 ミデイトマトの時間当たり吸水量と日射量の関係  
(2004年・半促成栽培)

(注) 各測定値は1時間の積算値、測定期間は平成16年6月15日～7月9日。ポット栽培、一株2本整枝(第6花房上摘心)。

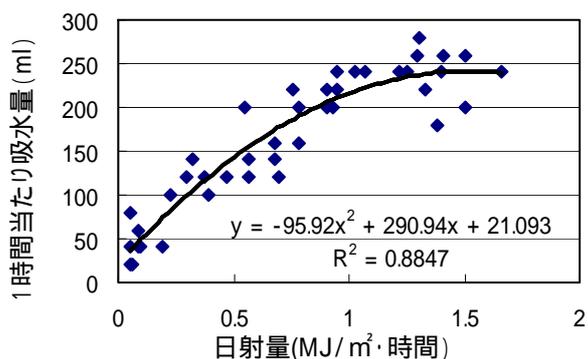


図3 ミデイトマトの時間当たり吸水量と日射量の関係  
(2003年・抑制裁培)

(注) 各測定値は1時間の積算値、測定期間は平成15年9月11日～9月13日、17日。ポット栽培、一株2本整枝(第6花房上摘心)。